

第5 港 湾

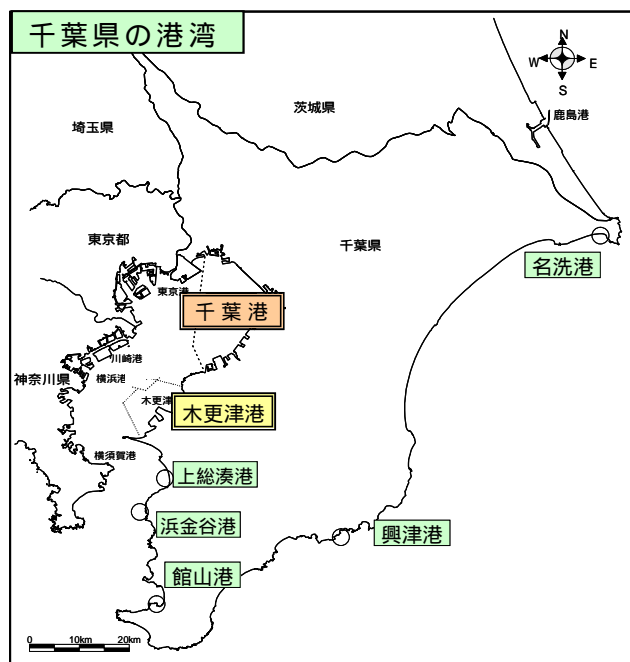
港湾の概要

本県には国際拠点港湾である千葉港をはじめ、重要港湾の木更津港、地方港湾の上総湊港、浜金谷港、館山港、興津港及び名洗港の7港湾があり、産業振興や地域経済の活性化に重要な役割を担っています。県はこれらの港湾の管理者として整備、管理運営を行うとともに、港湾の利用促進を図っています。



千葉港千葉中央地区

千葉港（国際拠点港湾）



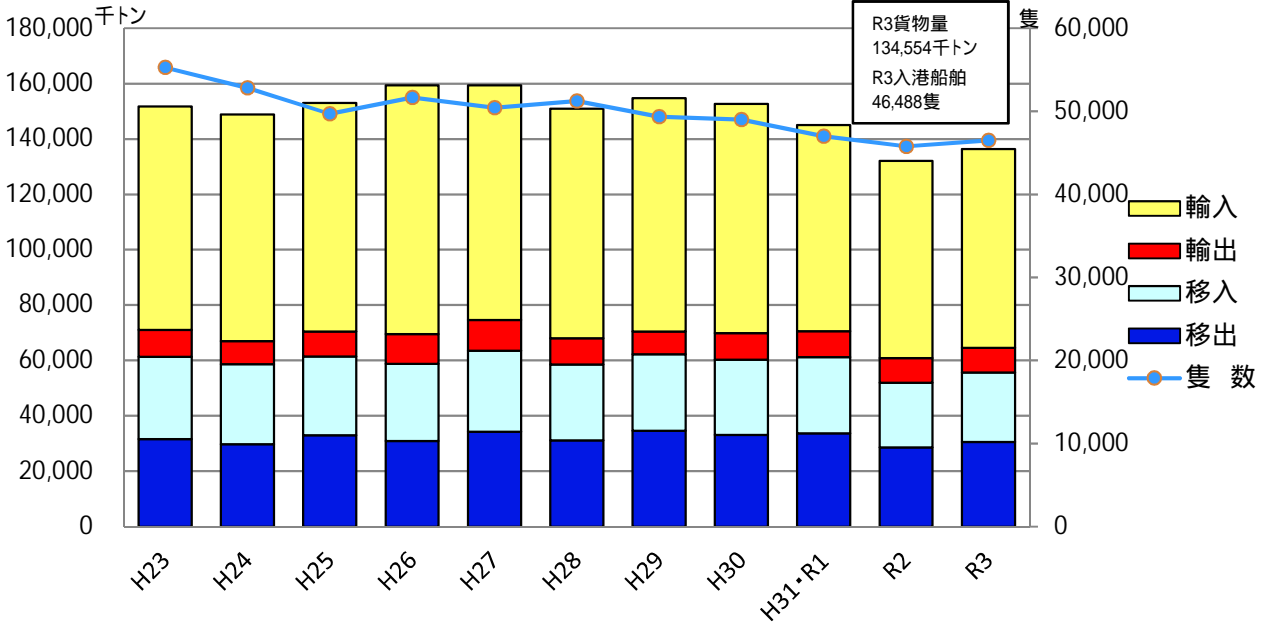
港格) 港域面積	港湾の特性
千葉港 拠点) 24,800ha	<ul style="list-style-type: none"> 石油コンビナート、製鉄所、LNG基地、火力発電所などの大規模施設が集積しています。取扱貨物は臨海部立地企業の原材料、製品、完成自動車などを主体としており、全国第2位の取扱量となっています。令和3年において、取扱貨物量の約8%を公共埠頭で、約92%を専用埠頭で取り扱っています。 東京港、横浜港に比べ規模は小さいものの、コンテナ貨物も取り扱っています。 千葉ポートパーク、幕張から稲毛に至る日本一長い人工海浜などが整備されています。
木更津港 重) 7,300ha	<ul style="list-style-type: none"> 製鉄所、LNG基地、火力発電所などが立地しています。取扱貨物は、臨海部立地企業の原材料、製品を主体としており、全国有数の取扱量となっています。 千葉県で産出する山砂の首都圏への出荷基地となっています。 鉄鋼業の国際競争力強化を図るため、「国際パルク戦略港湾」（鉄鉱石）に選定されています。
上総湊港 地) 160ha	<ul style="list-style-type: none"> 湊川河口に位置し、小型船の船だまりとして利用されています。 階段式護岸や駐車場等が整備されており、海水浴場としても利用されています。
浜金谷港 地) 130ha	<ul style="list-style-type: none"> 久里浜と結ぶフェリーの発着場となっています。 県内で産出する砂・砂利などの出荷基地となっています。
館山港 地) 700ha	<ul style="list-style-type: none"> 全国に13港ある特定地域振興重要港湾の一つとして選定され、多目的棧橋も整備され、南房総地域の観光レクリエーション振興のための重要な拠点となっています。 コンクリート等に利用する骨材の移入を行っています。
興津港 地) 80ha	<ul style="list-style-type: none"> 自然景観、自然環境の豊かな港であり、小型船の船だまりや海水浴場として利用されています。 荒天時に小型船が避難するための避難港に指定されています。
名洗港 地) 580ha	<ul style="list-style-type: none"> 海洋性レクリエーション拠点港湾として指定され、マリーナや海浜が整備されています。 荒天時に小型船が避難するための避難港に指定されています。

注 拠点) 国際拠点港湾：国際戦略港湾以外の港湾であって、国際海上貨物輸送網の拠点となる政令で定められた港湾（全国に18港湾）
 重) 重要港湾：国際戦略港湾及び国際拠点港湾以外の港湾であって、海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重大な関係を有する政令で定められた港湾（全国に102港湾）
 地) 地方港湾：国際戦略港湾、国際拠点港湾及び重要港湾以外の港湾（全国に808港湾）

（参考）国際戦略港湾

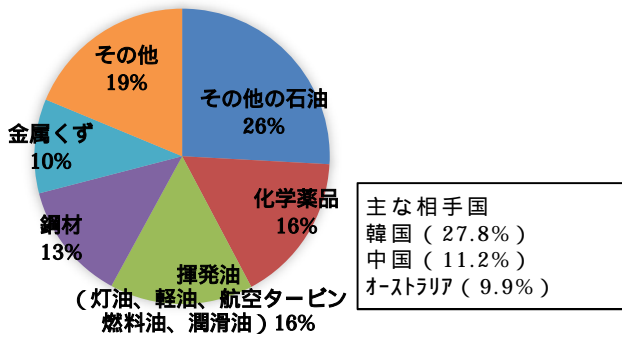
長距離の国際海上コンテナ輸送に係る国際海上貨物輸送網の拠点となり、かつ、当該国際海上貨物輸送網と国内海上貨物輸送網とを結節する機能が高い港湾であって、その国際競争力の強化を重点的に図ることが必要な港湾として政令で定められた港湾（全国に5港湾）

千葉港【入港船舶・海上出入貨物 年次推移】

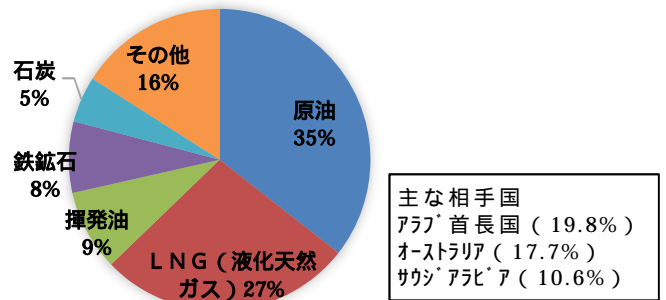


千葉港【外国貿易・主要品目 R 3 年貨物取扱量 (千トン、%)】

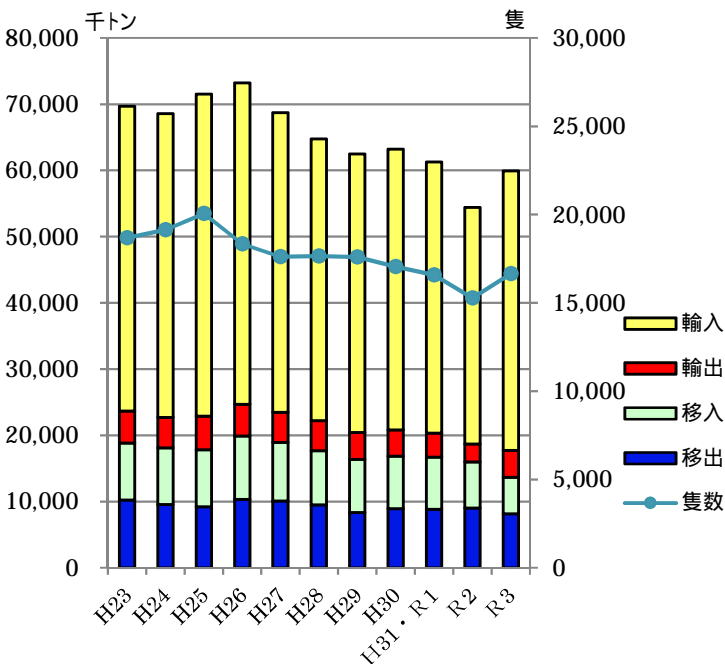
輸出 8,871千トン



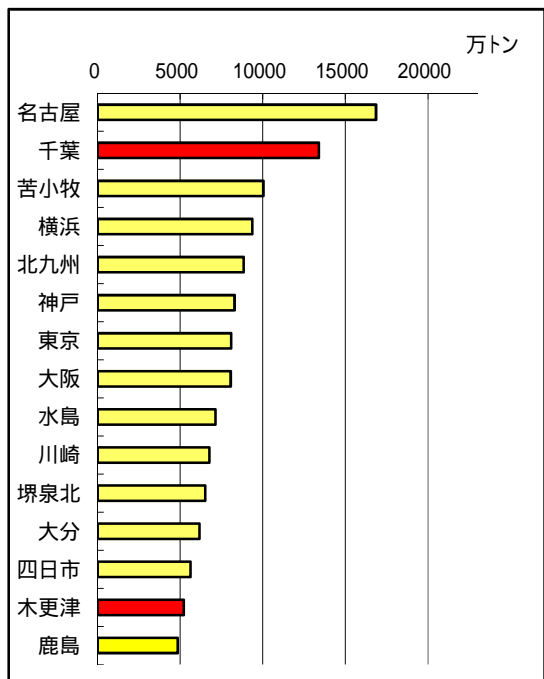
輸入 71,815千トン



木更津港【入港船舶・海上出入貨物 年次推移】



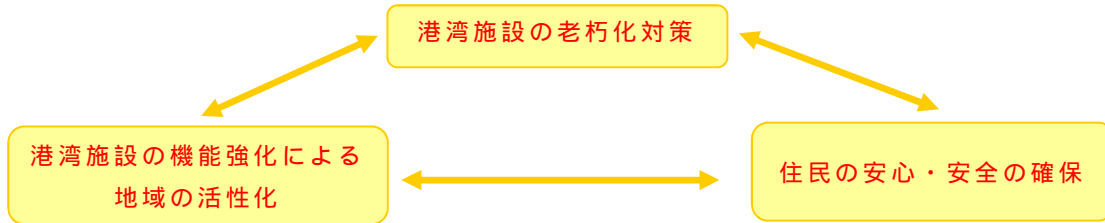
【全国の港湾の比較 (令和2年海上出入貨物)】



港湾の整備

(1)整備方針

3本の柱に沿った整備方針で、各港に適した整備を推進します。



三方を海に囲まれている地理的条件を活かしながら、人、もの、文化が交流する海と陸とをつなぐ拠点として、暮らしや産業をサポートし、県民の生活の向上や経済の持続的な発展に貢献します。

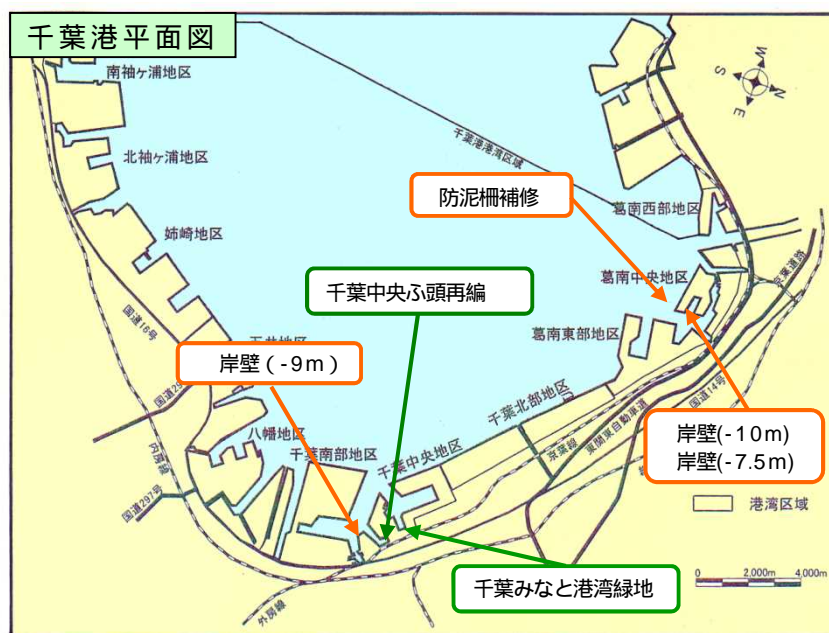
千葉港、木更津港では、大型船舶に対応するための施設整備を進めるなど産業基盤である港湾物流機能を強化するとともに、水際線ににぎわいの場を創出し魅力ある港湾空間の形成を図ります。

地方港湾では、物流機能に加え地域観光ネットワークにおける海の玄関口としての整備、海洋性レクリエーション拠点の形成を進め、個性ある地域社会の活性化に貢献します。

大規模な地震などの災害時に緊急物資などを輸送するための耐震強化岸壁の整備や、災害時に避難地として機能する港湾緑地の整備を図ります。

より使いやすい港となるよう、また、港湾利用者の意見がこれまで以上に反映されるよう努めるとともに、海域環境の保全、ライフサイクルコストの削減、費用対効果などについて一層配慮することとします。

(2)各港の整備



葛南中央地区

- ・既存の - 10 m 岸壁 を、30,000トン級の大型船舶の接岸が可能な - 12 m 岸壁に改良し、あわせて耐震強化機能を持たせる整備事業を国の直轄事業として進め、平成26年度に整備が完了し、供用を開始しました。現在は、防泥柵の補修工事を実施しています。
- ・老朽化対策として、南C岸壁(-10m)、北I岸壁(-7.5m)の改修工事を実施しています。

10 m 岸壁：干潮時でも水深10mが確保できる岸壁



千葉中央地区

- ・船舶大型化や貨物取扱ヤードの不足等の課題の解消を図るため、平成30年11月に千葉港港湾計画改訂を行い、千葉中央地区の埠頭再編を進めています。
- ・令和2年度より、埠頭再編の最初の施設整備となる出洲埠頭D岸壁(-9m)を国の直轄事業として進めています。
- ・併せて、埠頭再編に係る埋立事業に向けて、船舶移転に係る関係機関と調整や埋立護岸の設計を進めています。

- ・千葉港の玄関口にふさわしい賑わいある親水空間を創出するため、千葉みなと駅前に緑地プロムナード等の整備を進め、令和2年度に整備が完了し、令和3年4月から供用を開始しました。

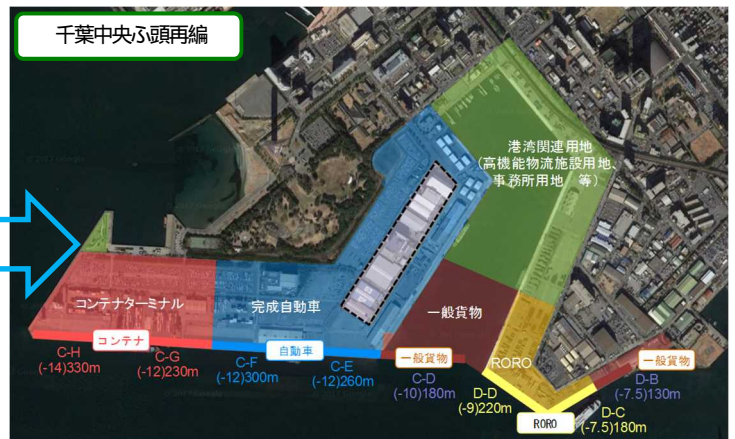
葛南中央地区の岸壁老朽化対策



千葉中央地区



千葉中央ふ頭再編



千葉みなと港湾緑地



令和元年11月4日『ピアフェス』開催状況

館山港

- ・南房総エリアの緊急物資輸送拠点として、
- 5.5m耐震強化岸壁が整備されています。
- ・地域観光ネットワークの海側の玄関口として、旅客船等が着船できる多目的棧橋が平成22年4月より供用開始されています。多目的棧橋の更なる利用促進が図られるよう機能強化を図っています。
- ・また、多目的棧橋歩道部の老朽化が進んでいるため、補修を行っています。

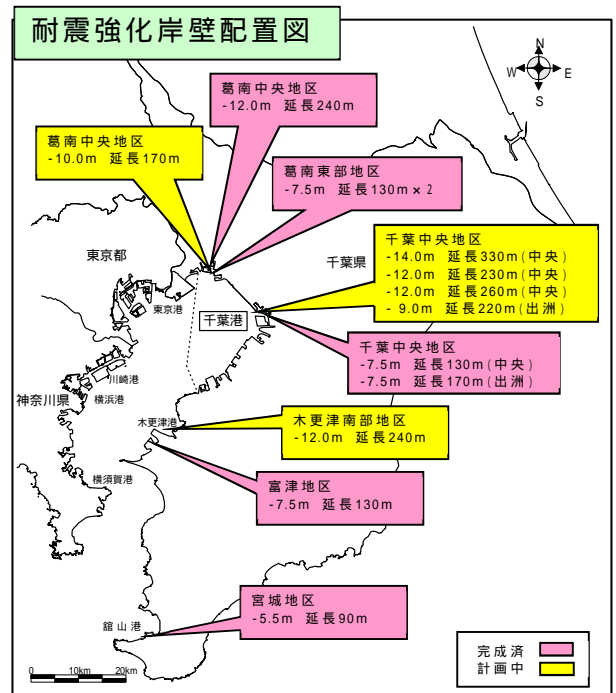


名洗港

- ・海洋レクリエーション拠点として銚子マリーナにプレジャーボート係留棧橋が整備されています。
- ・港の静穏度を確保するため、防波堤の改修工事を行います。

上総湊港、浜金谷港、興津港

- ・上総湊港では、主に小型船を対象とする船だまりが整備されています。
- ・浜金谷港では、砂・砂利の積出に必要な施設が整備されています。また、久里浜と結ぶフェリーの発着場としても利用されています。
- ・興津港では、主に小型船を対象とする船だまりが整備されています。



(3)耐震強化岸壁の整備

港湾は、大規模地震時に、住民の避難や緊急物資などの輸送に重要な役割を果たす必要があります。このため、千葉港、木更津港及び館山港において、適地を選定の上、大規模地震時にも、施設の健全性を保つことのできる耐震強化岸壁の整備を進めています。

港湾の管理運営

公共岸壁、荷さばき地、緑地などの港湾施設を良好な状態に維持管理するとともに、各種利用申請の受付や安全確保のための港湾パトロール、海面清掃などを実施しています。

また、船舶給水、港務通信、曳船・通船業務など船舶や港湾荷役活動に必要なポートサービスの提供やあっせんを行っています。



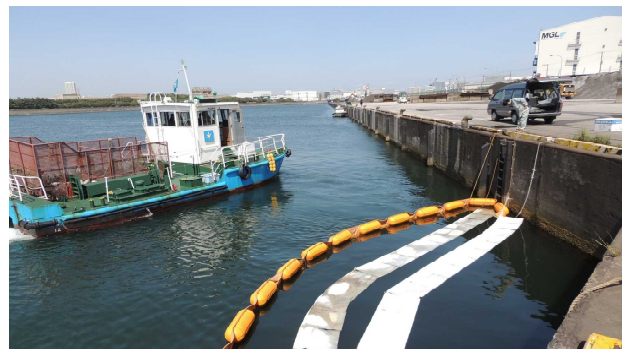
港湾緑地の維持管理



清掃船による港内の海面清掃



防災・給水等多目的船「若葉」



油吸着マットによる流出油の除去

港湾の利用促進

ア ポートセールスの実施

県内港湾の利用促進を図るため、県内外の荷主や船社等の関連企業・団体に対して、「千葉港ポートセミナー」の開催や個別訪問を実施するなど、より一層の利用拡大に向けて働きかけを行っています。

イ コンテナターミナルの利用促進

千葉港における輸出入コンテナ貨物の増加を図るため、平成21年度から千葉中央埠頭コンテナターミナルを利用する荷主を対象として、補助金による助成を行っています。



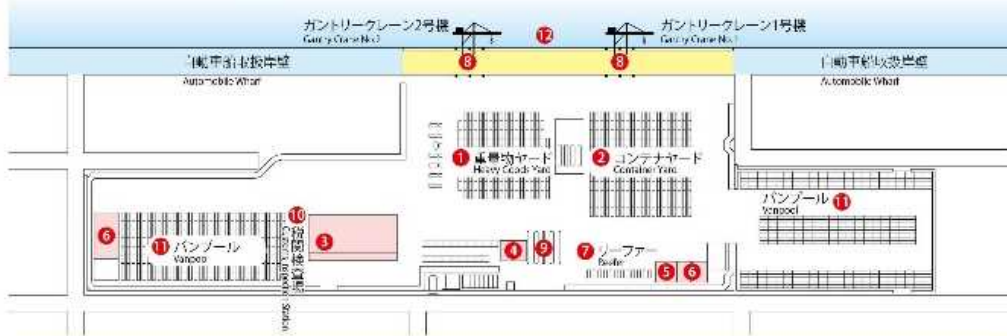
千葉港ポートセミナー2019の様子
令和2年は開催中止、3年は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインのみの開催

千葉中央埠頭コンテナターミナルの運営

千葉港では、平成6年6月に千葉中央埠頭コンテナターミナルを開設し、東京湾の国際物流拠点として運営しています。

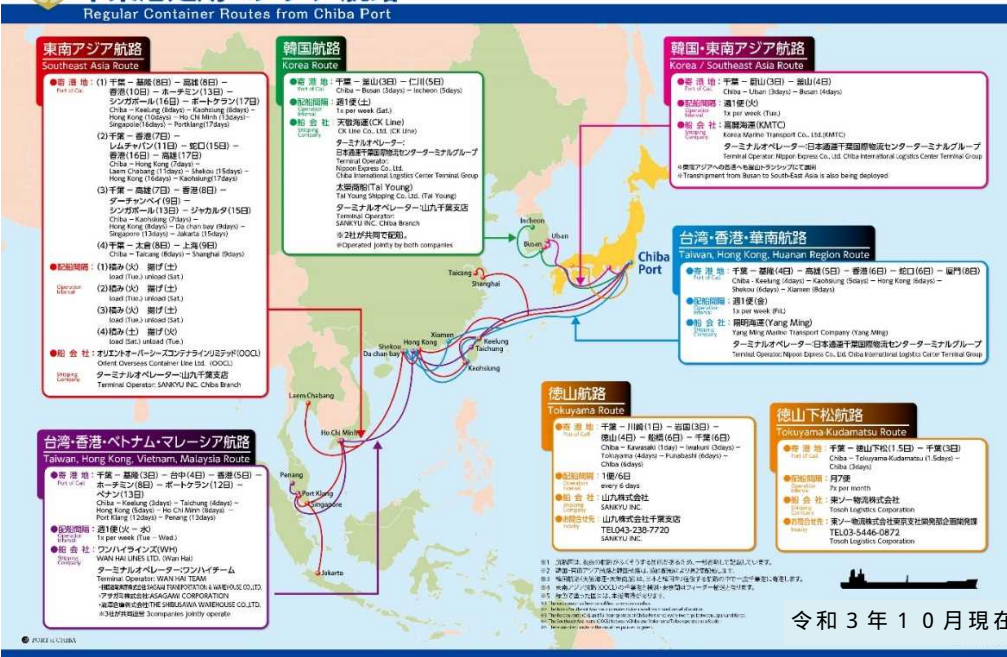
現在、諸設備を整備し、荷役能力の更なる充実を図っており、スムーズな運搬を行うことで、国際物流サービスを担う最前線となっており、中国、韓国、東南アジア方面などへ定期コンテナ航路が開設されています

●千葉港コンテナターミナル平面図 Floor Plan: Container Terminal, Chiba Port



番号 No.	名称 Name	備考 Notes	番号 No.	名称 Name	備考 Notes
1	重機物ヤード Heavy Goods Yard	コンテナ置場 4,540TEU(最大)	7	リーファー Reefer	冷凍コンテナ用電源設備 52基 Refrigerated container power facilities (52)
2	コンテナヤード Container Yard	Container yard (max: 4,540 TEU)	8	ガントリークレーン Gantry Crane	コンテナの積載を行うクレーン 2基 Container loading/unloading gantry cranes (2) Lifting capacity: 50t, suited for ISO17, 30ft containers
3	コンテナフレートステーション(CFS) Container Freight Station (CFS)	コンテナ詰めや混載を行う施設 1棟1,934㎡ Container loading and consolidation facility 1 (1,934㎡)	9	トラックスケール Truck Scales	コンテナ積載車の計量施設 1棟 Container vehicles weighing facility 1
4	管理棟 Administration Building	荷扱業務、管理業務 1棟 Cargo handling, Administration building 1	10	税関検査場 Customs Inspection Station	税関検査業務 Customs inspection station
5	メンテナンスショップ Maintenance Shop	コンテナの修理場 1棟 Container repair location 1	11	バンブール Vanpool	空コンテナ置場 848TEU Empty container yard (max) 848 TEU
6	メンテナンスエリア Maintenance Area	コンテナの修理場 1,025㎡ Container repair area 1,025㎡	12	コンテナ専用岸壁 Dedicated Container Wharf	水深-12m、バース延長240m、 エプロン幅24.5m Depth 12m, Berth length 240m, Apron width 24.5m

千葉港定期コンテナ航路 Regular Container Routes from Chiba Port



令和3年10月現在